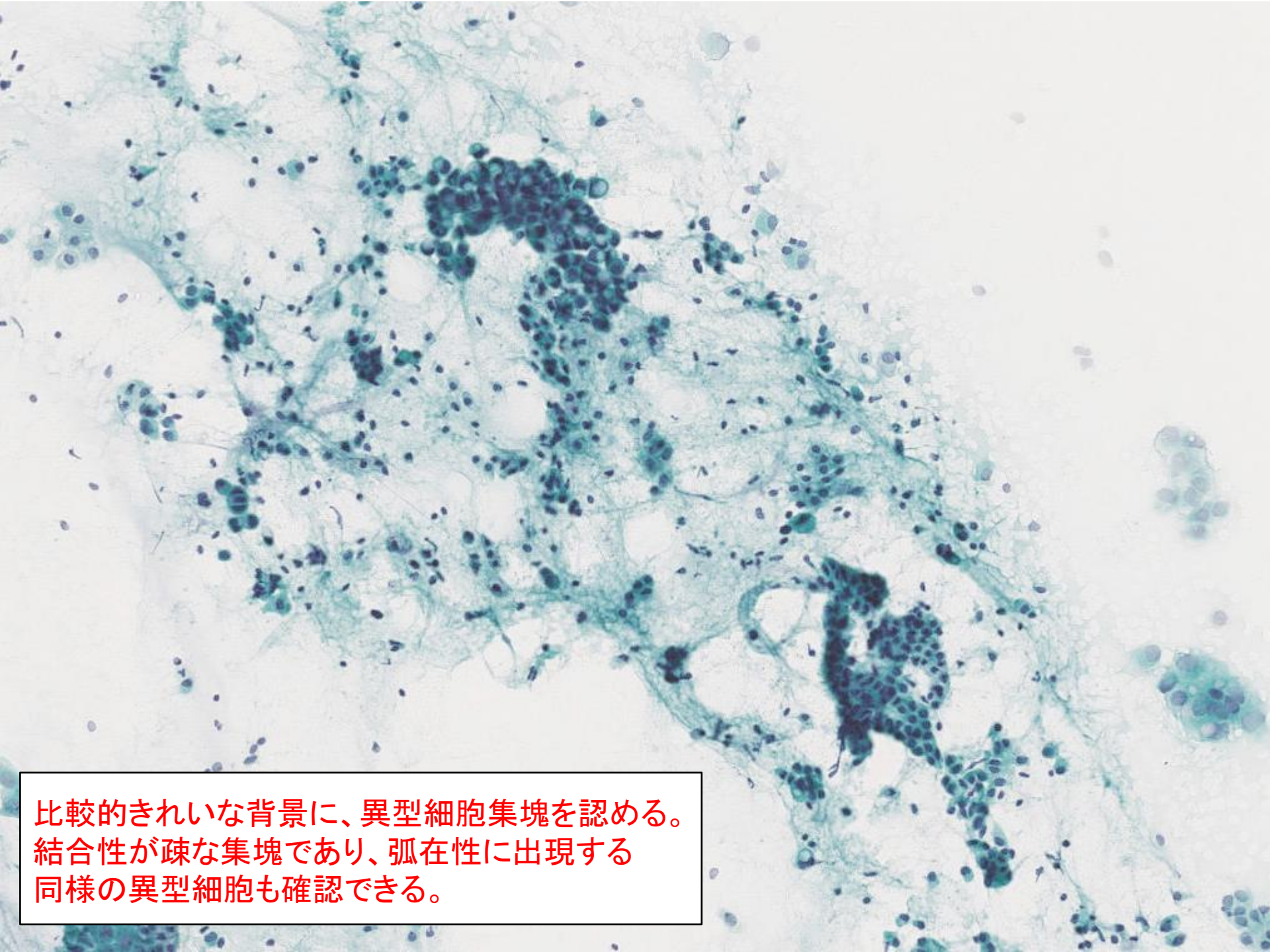


第46回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会 スライドカンファレンス

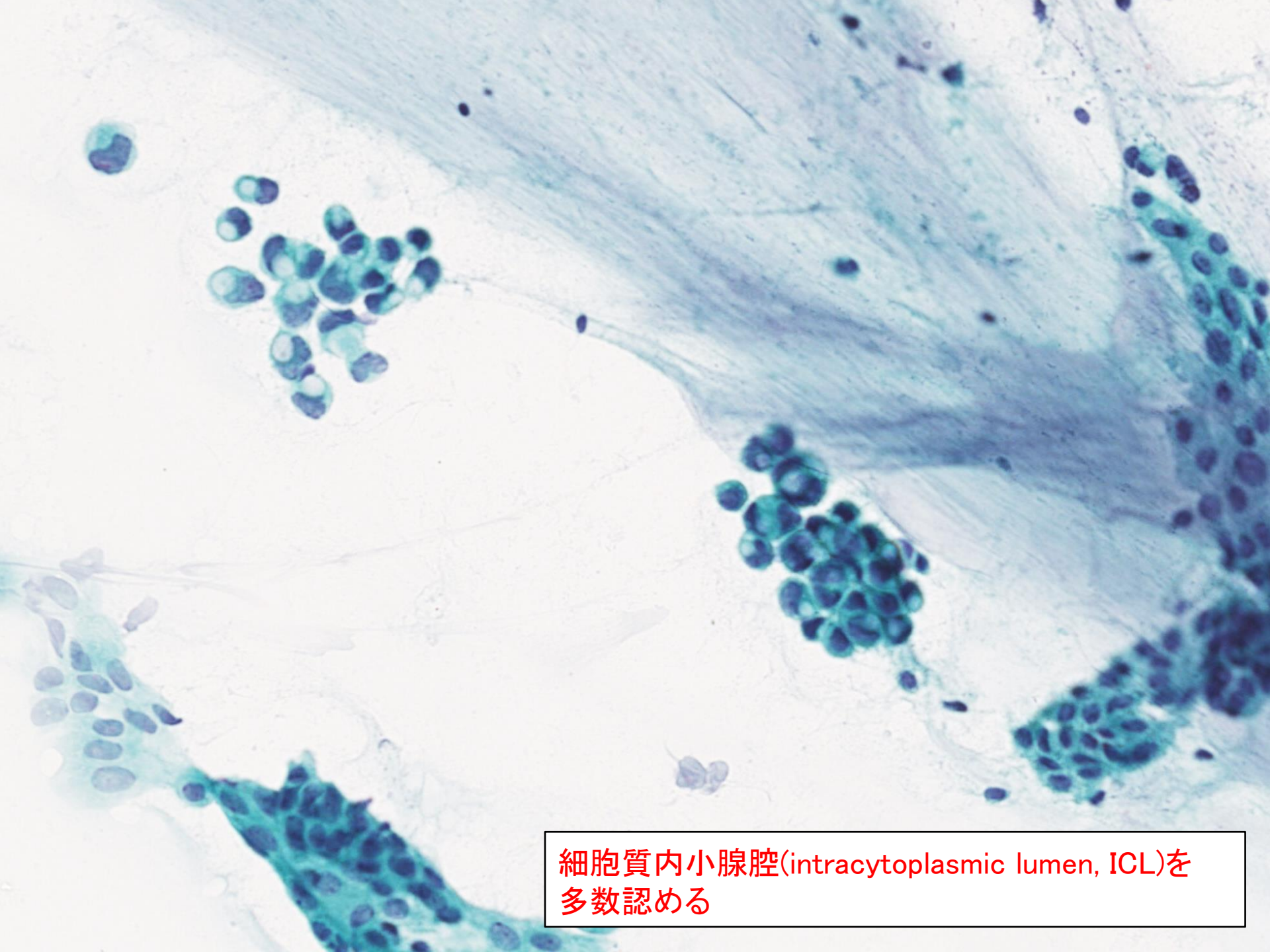
①婦人科

奈良県立医科大学 産婦人科

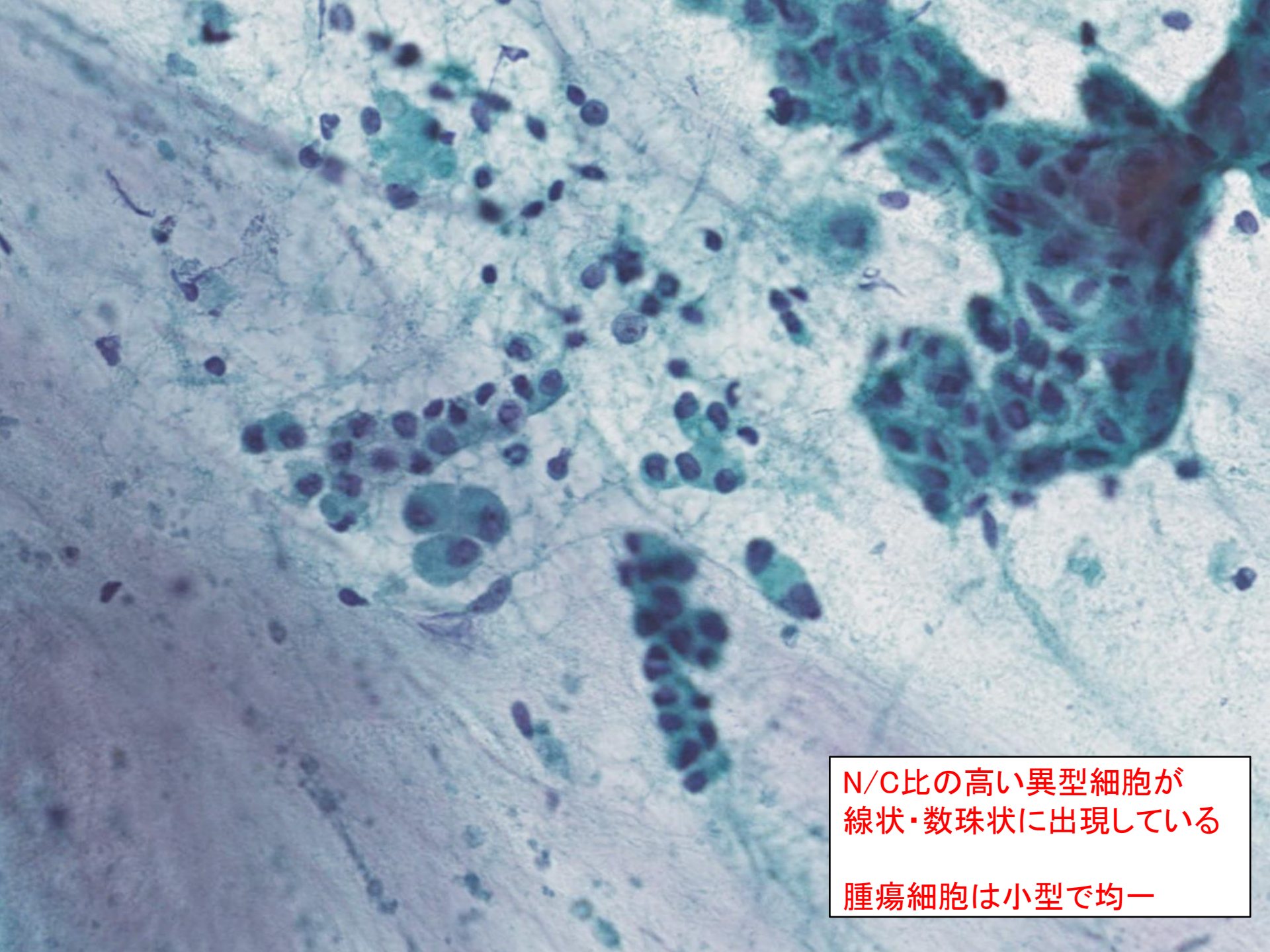
山田 有紀



比較的きれいな背景に、異型細胞集塊を認める。
結合性が疎な集塊であり、弧在性に出現する
同様の異型細胞も確認できる。

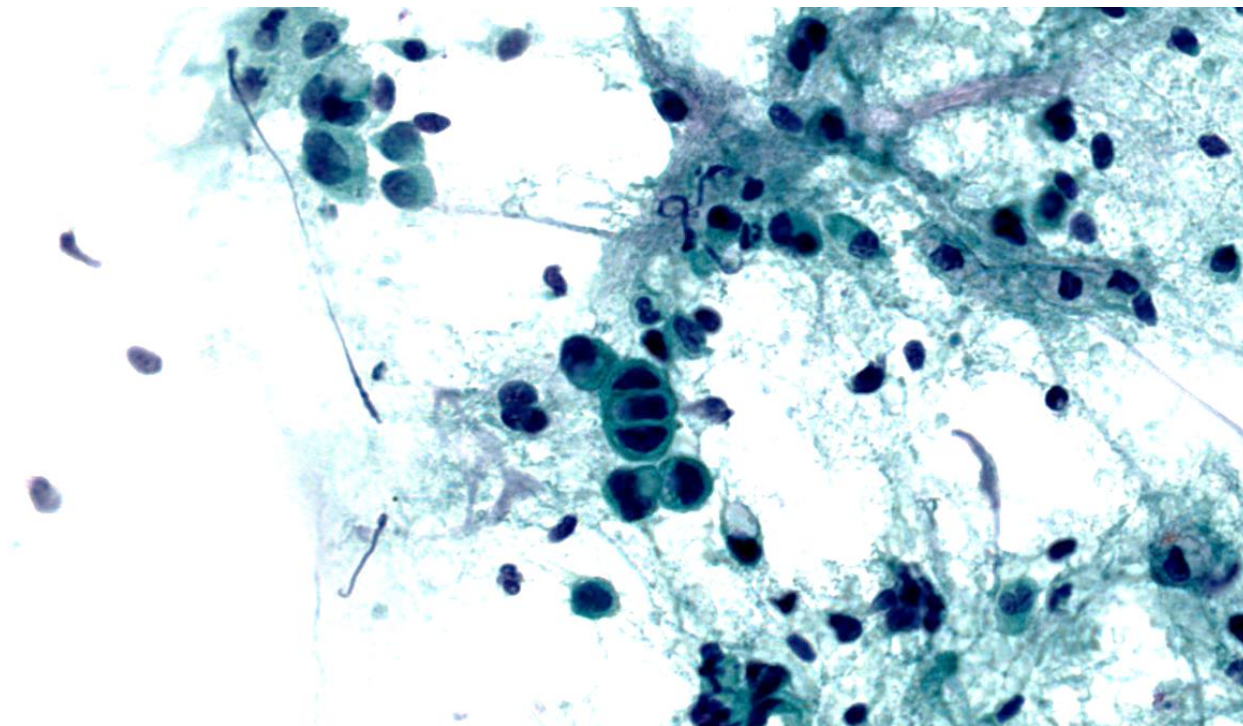
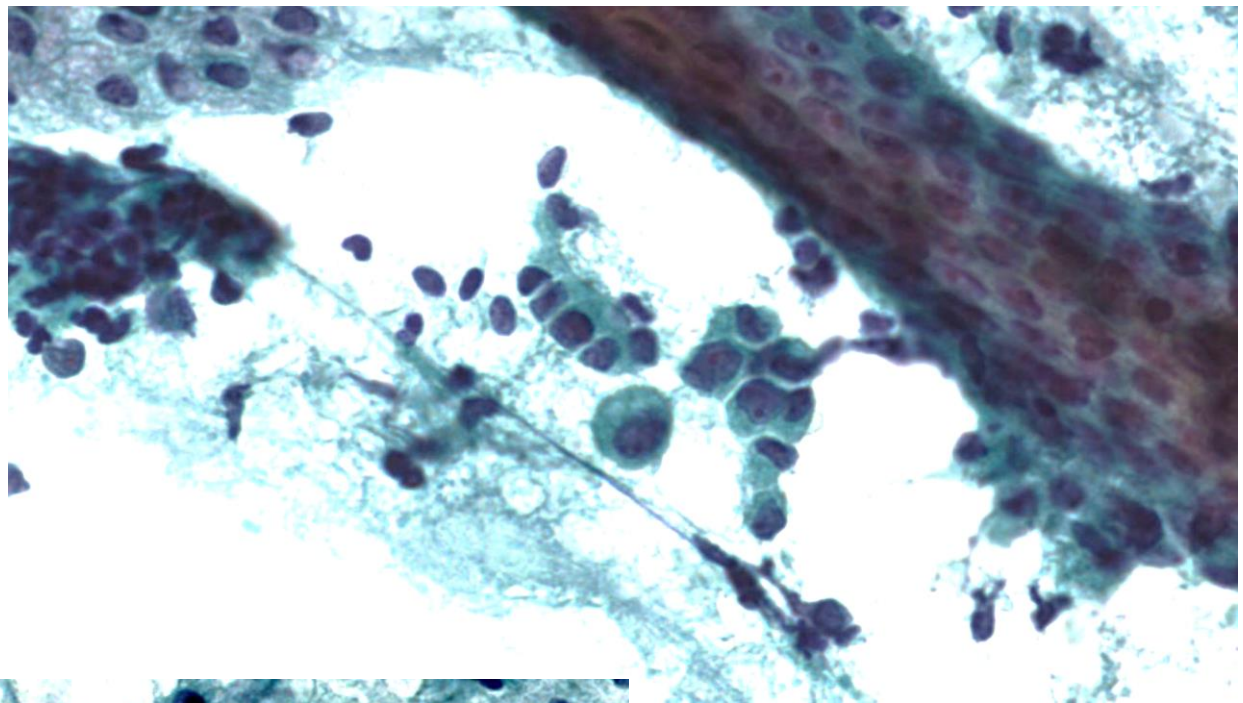


細胞質内小腺腔(intracytoplasmic lumen, ICL)を
多数認める

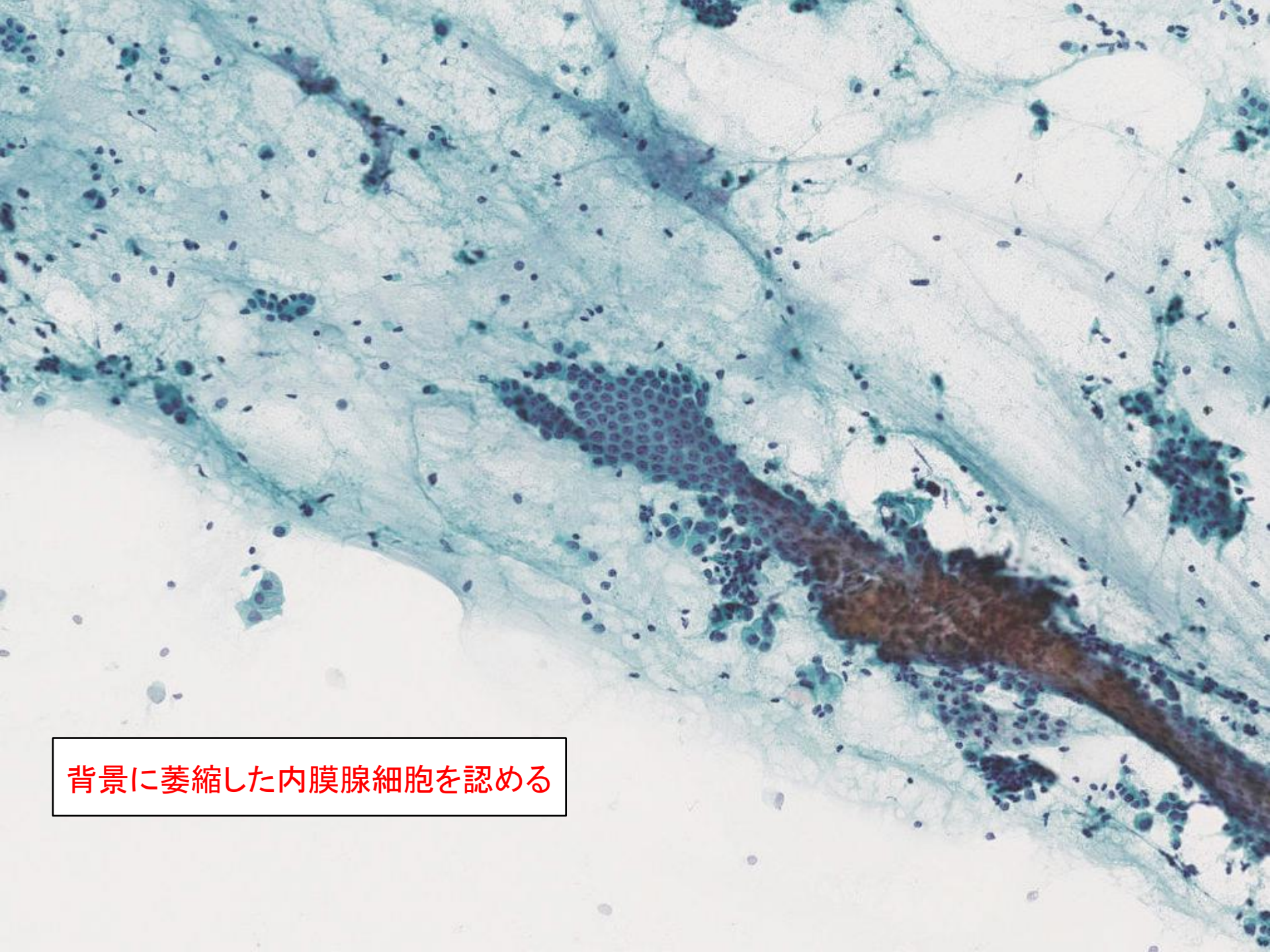


N/C比の高い異型細胞が
線状・数珠状に出現している

腫瘍細胞は小型で均一



インディアンファイル状配列



背景に萎縮した内膜腺細胞を認める

浸潤性小葉癌の特徴

- 小型で結合性の疎な細胞
- 線状配列や数珠状配列の小集団とともに孤立散在性に出現する
- 細胞質にICLを認める頻度が高い
- クロマチンは微細で淡くみえることが多く、核形不整が目立つ

選択肢

① 類内膜癌 腺管構造がない、乳頭状増殖ではない点が異なる

② 漿液性癌 細胞異型が弱い、細胞の結合性が低いため異なる

③ 小細胞神経内分泌癌

クロマチンの性状が異なる、木目込み細工様の配列はなし

④ 乳癌（小葉癌）の転移

⑤ 悪性リンパ腫 上皮性結合があるため異なる